

会 議 議 事 録

1 会議名	令和2年度長岡市公立学校通学区域審議会
2 開催日時	令和3年3月23日（火曜日） 午前10時から午前11時45分まで
3 開催場所	さいわいプラザ 6階 大会議室
4 出席者名	<p>(委員)</p> <p>島倉昭宏委員長 小宮山多恵子副委員長 長谷川和明委員 田村恵子委員 河田吉之助委員 安藤和美委員 内藤善幸委員 岩渕里江子委員 奥山清美委員 荒木清太郎委員 米谷一広委員 中村 清委員 丸山 稔委員 小林 昇委員 松井麻里委員 島宗陽子委員 田中一久委員 羽鳥仁一委員 佐藤義尚委員 三角幸重委員 上村光一委員 吉井純子委員 宮 宏之委員</p> <p>(委員以外の出席者)</p> <p>小池教育部長</p> <p>(事務局)</p> <p>笠井学務課長 米山学務課長補佐 小林学事係長 神村学事係主査</p>
5 欠席者名	古川絹子副委員長 吉田隆夫委員 五十嵐滋之委員 鈴木昌子委員 吉田美紀子委員
6 議題	(1) 委員長・副委員長の選任について (2) 報告事項 ①長岡市立学校通学区域規則の一部改正について ②学区外就学許可区域の設定について ③「教育環境を考える保護者懇談会」の実施について
7 審議結果の概要	・議題(1)について、委員長に島倉昭宏委員、副委員長に古川絹子委員、小宮山多恵子委員が選出された。 ・議題(2)について報告がされた。

8 審議の内容	
事務局	<p>任期最初の会議となるので、自己紹介をお願いしたい。</p> <p>(出席委員・事務局職員自己紹介)</p>
事務局	<p>表彰の報告をさせていただく。多年にわたり本審議会の委員として尽くされた功績から、平成31年4月に退任された山古志中学校区の榊澤和幸前委員が令和元年度長岡市教育委員会表彰を、平成元年10月の改選で退任された山本中学校区の佐藤恭一前委員が令和2年度長岡市教育委員会表彰をそれぞれ受賞されたことを紹介させていただく。</p> <p>引き続き、議題に入りたい。最初に役員の選出を行うが、委員長1名、副委員長2名について推薦等はあるか。</p> <p>(推薦なし)</p>
事務局	<p>事務局に腹案があるが、提案してよいか。</p> <p>(異議なし)</p>
事務局	<p>山本中学校区の島倉委員に委員長を、青葉台中学校区の古川委員と旭岡中学校区の小宮山委員に副委員長をお願いしたいがどうか。</p> <p>(異議なし)</p>
事務局 委員長	<p>それでは、以下の議題については、委員長から進行をお願いしたい。</p> <p>報告事項(1)の長岡市立学校通学区規則の一部改正について、事務局から説明をお願いしたい。</p>
事務局 委員長	<p>(資料No. 1により説明)</p> <p>報告事項(2)の学区外就学許可区域の設定について、事務局から説明をお願いしたい。</p> <p>(資料No. 2により説明)</p>
委員 事務局 委員長	<p>今回、山田2丁目1番に限って許可区域の設定を行うものか。</p> <p>町内会の要望に基づき、区域設定したものである。</p> <p>報告事項(3)の「教育環境を考える保護者懇談会」の実施について、事務局から説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>(資料No. 3により説明)</p>

委員長 委員	<p>委員の皆さんの意見を伺いたい。</p> <p>川口地域では以前、複数の小学校があったが、統合を進めた結果、1つの小学校となった。児童の減少に伴い複式学級の編制が見込まれることを契機に地域内の PTA で議論し、順次統合を進めてきた経緯がある。川口も近い将来、複式学級の編制をせざるを得ない人数規模になりつつある。懇談会の対象校の選定について、当面は継続的に複式学級を編制している学校を対象としているが、可能であれば、複式学級の編制が今後見込まれる小学校区についても範囲を広げ、複式学級のメリット・デメリット等を保護者・地域で懇談できる機会を設けてほしい。</p>
委員長	<p>この懇談会については、「統合ありき」で行っているものではないことはあらかじめ皆さんにお伝えしておきたい。望ましい教育環境を考えることを目的として開催しているものと聞いている。</p>
委員	<p>東中学校区は6小学校で構成されている。小学校同士の距離が近くて人数が少ないという状況である。学校は地域と結びつきが強く、コミュニティセンターも各小学校単位で設置されているため、なかなか議論をしにくい状況ではある。学校についての考え方は、保護者世代と年配の世代とで認識に違いはあるが、先を見据えて地域で議論する場を設けていくことは必要だと思う。</p>
委員	<p>今後の児童数の推移を見ながら、未就学児の保護者にも様々な情報を提供をしていくことが必要だと思う。</p>
委員	<p>対象校の選定の基準は。</p>
事務局	<p>今回選定した9小学校は、複式学級を編制している学校のうち、比較的平場にあり、近隣校との往来が容易な学校を選定した。まずは、複式学級を編制している学校区での意見交換を進め、その後はそれ以外の小規模校にも範囲を広げていきたいと考えている。</p>
委員 事務局	<p>現在、複式学級を編制している小学校の数と割合を伺いたい。</p> <p>令和2年度は10校で複式学級を編制している。市立小学校は55校あり、複式学級編制校の割合は2割程度である。</p>
委員	<p>上塩小学校、下塩小学校、東谷小学校では新入学児童が非常に少ない状況であり、近隣の他学区に入学する児童もいる。栃尾地域の出生数も年々減少しており、令和2年度は40名にまで激減した。上塩小学校区、下塩小学校区の園児を受け入れる上塩保育園が令和3年度をもって募集停止となる。学校を拠点として地域振興を図りたい地域の考え方や、子どもの教育環境を優先する保護者の考え方に差異があり、学校統廃合に対する認識にも大きな違いがあるため、このギャップを</p>

	<p>埋めるための話し合いを地域で進めている段階である。合併後には、保育園や幼稚園の段階では栃尾地域で子育てをするが、小学校入学のタイミングで長岡地域の市街地へ転出する子育て世代が増えていることも、栃尾地域の児童数減少の要因となっている。</p>
<p>委員長</p>	<p>望ましい教育環境を考えるうえでの適正規模について、学級数や児童数などの視点から事務局の考えを伺いたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>国が示している学級数の標準規模は、1校あたり12～18学級としている。長岡市では小規模校が多く、国の標準規模を当てはめた場合、少子化も進んでいるので、どんどん統合を進めていかなければならないということになる。市では規模適正化について明確に定めている基準はないが、多様な考え方に触れたり、互いに切磋琢磨できる環境を考えると、小学校では100名以上、1クラス10数名の人数がいることがひとつの目安だと考える。地域には、学校は地域の核であり、学校がなくなると地域が衰退することを危惧する声もあるが、保護者の立場で子どもの教育環境を考えることを主眼に、まずは、保護者中心での懇談会を実施している。望ましい教育環境として、統合を選択肢の1つとして保護者が望む場合は、今後、地域も交えて議論を深めていくことになる。</p>
<p>委員</p>	<p>保護者や子どもたちとしては、統廃合は喫緊の課題であると考えますが、行政としては拙速な対応は避けてほしい。小規模校であっても切磋琢磨できる部分もあると思う。懇談会の参加者のうち、統合を望む声はどの程度あったか、感触を聞きたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>各懇談会での参加者からは統合を望む意見が一定数あり、反対意見はほとんどなかった。</p>
<p>委員</p>	<p>中之島地域は、現在3小学校1中学校であるが、今後児童数の減少が見込まれるため、いずれは複式学級等の課題が出てくるものと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>越路中学校区は2小学校1中学校で構成されている。越路小学校は大規模校だが、越路西小学校は1学年1学級の規模であり、今後複式学級になるのでないかと感じており、地域でも今後のことを考えていかなければならないと感じさせられた。</p>
<p>委員</p>	<p>三島地域では、学校に対する地域の思いが強く、統合を考えた時に地域と保護者の考えに違いがあるほか、学校も地域の協力の下で成り立っている現状を考えると、なかなか難しい問題だと感じた。</p>
<p>委員</p>	<p>小国地域では平成29年4月に3小学校を統合して小国小学校を開校した。統合の経緯としては、児童数の減少により複式学級の編制に危</p>

委員	<p>機感を抱いた保護者の意見を聞いて、地域の中で試行錯誤しながら統合に向けた検討会を保護者、地域住民で一体となって進めてきた。</p>
委員	<p>和島地域では平成21年に2小学校を統合して和島小学校となった。発端としては複式学級になる前に統合した方がよいとの判断から統合を進めていったものである。統合後も児童数の減少が進んでおり、令和3年度の新入生は10名程度であるなど、今後の推移を心配している。</p>
委員	<p>与板地域は1小学校1中学校である。規模的にはバランスが取れていると思うが、小学校から中学校まで同じ学校に通学するため、人間関係の固定化により関係が悪化すると学校に居づらくなる面もある。最近、授業のリモート化により、1人に1台にタブレット端末が配置されている。必ずしも近くの学校に行かなくてはならないという、従来の通学区域の概念も変わってくるのではないかと感じている。地域のつながりと子どもたちの教育環境とのバランスを考える大きな転換点に来ているように感じた。</p>
委員	<p>複式学級についてはメリット・課題がそれぞれあると思う。統合については住民感情もあり難しい問題ではあるが、教育委員会から地域との協議へ積極的に関わっていけば必ず解決できるものと考えている。</p>
委員	<p>通学パトロールで毎日通学する子どもたちを見てきたが、6年生の姿を見ていると、中学校に進学することへの喜びを感じることができないように感じた。今年度はコロナ禍の影響もあり卒業式も縮小され、下級生から送ってもらえないなど、子どもたちの気持ちの面で影響があったように思う。教育委員会からも子どもたちの心のケアについても配慮をいただきたい。</p>
委員	<p>現在のところ、学校規模については申し分のない規模である。今後、下川西小学校の児童数減少による複式学級に進んでいく可能性があることを心配している。</p>
委員	<p>西中学校区は4小学校あり2校は小規模校である。特に深沢小学校については、中学校区が西中学校と越路中学校の2つに分かれており、子どもの気持ちも汲んで学校が選択できるとよいと思う。</p>
委員	<p>東北中学校区は4小学校で構成されており、中学校は生徒数が700名を超える大規模校である。教育環境の議論については保護者・地域だけでなく子どもたちの話も聞いてほしい。</p>
委員	<p>宮内中学校区は4小学校で構成されている。石坂小学校の児童は宮内中学校に進学した後も臆することなく活動しており、不登校などの問題も起こっていないと聞いている。小規模校であるため、例えばPTA役員を繰り返しやらなければならないなどの課題もあるが、保護者目</p>

<p>委員</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>副委員長</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員長</p>	<p>線だけではなく、子どもの教育環境を最優先に考えて検討していくべき課題だと感じた。</p> <p>栖吉中学校区は1小学校1中学校であり、校区が広く平場と山手の地域があるが、各地域とも年間を通じて徒歩で通学している。地域の方々も子どもの登下校には目を配ってくれている。</p> <p>複式学級が編制されている小学校は全体の2割である。今後の教育環境がどうあるべきか、保護者や地域とよく議論してほしい。</p> <p>許可区域について、指定校と許可校の考え方を伺いたい。</p> <p>指定校は通学区域規則により指定された学校で、許可校は許可区域の設定により学区外就学が許可される学校をいう。許可区域に居住する児童生徒は、指定校及び許可校のいずれかに通学することが可能である。</p> <p>南中学校では今のところ人数などの環境は問題ないレベルである。複式学級や統合はただちに起こる状況ではないが、他地域の話を見ると他人事ではないと感じた。小国小や岡南小の統合の話で以前聞いたことがあるが、「統合」によりすべての問題が解決するというような単純なものではなく、統合した後も地域・学校とのコミュニケーションを密にすることがとても大切だと感じた。</p> <p>以前にこの審議会に検討委員会が設置され、学校統合や複式学級の課題について議論をしたことがある。その中では、小規模校におけるメリットや学校統合した後の新たな課題等について、教育委員会が地域に寄り添う形で丁寧に対応していくことを確認している。</p> <p>統合前は地域懇談会などを何度も行い、様々なことを丁寧に議論しているが、統合した後も統合前に気づけなかったことや今心配な点などを話し合う懇談会があるとよいと思う。</p> <p>市で進めているICT化が進み、児童生徒に配布されたタブレット端末により市内外の児童生徒と交流ができれば、学校環境について、特に人数の問題への考え方が大きく変わる可能性があると思う。</p> <p>以上で、議事を終了し、進行を事務局にお返す。</p>
<p>9 会議資料</p>	<p>別添のとおり</p>